

人権同和教育委員会

1 研究テーマ

人権を尊重し、あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒を育てるための指導のあり方

2 研究課題

あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒を育てるためには、
尊感情・他者理解を高める
コミュニケーション力を高める
仲間づくりをすすめる

ことがベースになければならない。平成 15 年度の研究では、コミュニケーション力は人権問題に立ち向かっていく力となる。互いに相手を尊重しながら、自分の言いたいことを伝えるアサーション・トレーニングは、予防的な意味で有効であることが明らかとなった。

そこで本年度は、自尊感情・他者理解を高めるためにはどのように指導していったらよいのかを、高甫小学校での実践を通して学ばせていただいた。総合的な学習の時間を使って、知的障害がある方々との交流をしたり、パラリンピックに関心をもち個人で調査活動をしたり、実際に車椅子での学校生活を体験したりしてきた児童たちが、障害がある方をより理解すると共に、自分も含めて人間は素晴らしい存在であることに気づいていくための指導のあり方を明らかにしようとしてきた。

3 この事例から明らかになったこと

総合的な学習の時間に人権教育・道徳を取り込む良さが出ていた。児童の意識の流れに沿って調査したり取材したりしてさまざまな体験や経験を通して学ぶことができた。また、VTR 資料や読み物資料を自作することで、児童の意識を継続させながら学習を深めていくことができた。

クラスがえ後の 5 月に行った Q-U テストの結果で承認得点が低かったことをうけ、グループエンカウンターを定期的に行い自尊感情を高められるように支援したり、被侵害得点が高い子が多くいることをうけ、今回の単元「夢をもち続けて」を仕組んで他者理解が深まるように支援したりしてきたことで、クラス内にあたたかな雰囲気醸し出されてきている。

4 指導の実際

主眼 車いすに乗ってみて、車いすの不便さを感じている子どもたちが、すごいなと感じた京谷さんの気持ちを読み取ったり、言葉の中に隠れている偏見を指摘されたりすることを通して、車いすバスケットを知る以前の自分の気持ちをふり返って、自分たちが車いすを「不便だ」とか「かわいそう」「何もできない」と見ていたことに気づくことができる。

(1) VTR を視聴した場面

VTR は障害があるなしなんて関係なくカッコよくスポーツをしている姿が録画されており素晴らしいものであった。

T2 見てどうでした？感想を。

C1 はい(T2 何が?) 速さが速い

C2 ミスらないで点をどんどん入れている

- C3 投げたボールが全部入っている
- C4 方向転換が速い
- C5 パスが速い (T3 そのパスは) ほとんど真ん中
- C6 投げたボールがほとんどシュートして入っている
- C7 そういうことじゃなくて (T4 いいよ) タイヤが斜めになっている
- T5 気がついた?
- C8 シュートが多いし動きが速い
- C9 こぐスピードが速い

Nさんは発言する機会はなかったが、口をあぐり開けてVTRに見とれていた。自分が車いすの体験をしたとき、手がうんと疲れてたいへんだと思ったのに、自由自在にやっけていてすごいという感想を持つことができ、自分の経験と照らし合わせてVTRからそのすばらしさを感じ取ることができた。自分で経験や体験をしていることで、感じ方が豊かになることがうかがえるとともに、児童の実態に合った自作のVTR資料の有効性も明らかである。

(2) 次時の確認の場面

T1 (板書を指摘) 不自由な人が、とか、車いすなのによって書いてあるよね。車いすに乗っている京谷さん自身も、みんなが思ったように普通のことができないと思っていたんだよ。でも…。実はこのお話には続きがあります。

C えっ本当、気になる…

T2 次の道徳の時間に勉強します。

総合的な学習の時間に人権教育や道徳の時間を組み入れて支援を積み重ねてきたことによって、子ども達のもっと知りたい、勉強したいという意識を継続させることができている。またQ-Uテストの結果を受け、こんな子ども達に育て欲しいという学級担任の願いのもと、読み物資料やVTR資料を自作してきた努力の成果があらわれている。

5 来年度への課題

パラリンピックや障害者スポーツに取り組んでいる人たちに視点を当てて支援をすすめてきて、車いすでスポーツをしている人はすばらしいことがわかった。では、車いすでのスポーツに取り組んでいない普通の生活をしている車いす使用者に対する理解を深める手立ても明らかにしていく必要がある。

高甫小学校の実践で自尊感情や他者理解を高めていくために、総合的な学習の時間に人権教育を取り入れることは非常に効果的であることがわかった。引続き自尊感情を高めるための支援のあり方や、体験的参加型学習の活用方法の研究をすすめていきたい。さらに、「私とあなたの伝え合い」(15年度森上小カリキュラム)の小学校低学年や中学校への応用、須坂市の人権同和教育カリキュラムにおける「あけぼの」の活用方法の研究等を実証授業を通してすすめていく。